

龍 声

東龍寺報

平成元年三月廿五日創刊
 発行編集所 〒959-1502
 新潟県南蒲原郡田上町
 曹洞宗 東龍寺
 電話 (0256) 57-3395
 FAX (0256) 57-2174
 ホームページ
<http://www.ginzado.ne.jp/~ryusei/>
 E-mail
ryusei@ginzado.ne.jp

永平寺に再び上山させて頂いて

東龍寺住職 渡辺 宣昭

早いもので昨年十一月四日に、大本山永平寺・布教部部长に就任して、半年近く経ちました。

就任の際、修行僧と役寮（役職を頂いて本山につとめている僧侶）しか入ることが許されない僧堂（坐禅堂）内を巡った時には、二十八年前再び巡ることはないだろうと思つて行つた乞暇（修行を終えて帰るとき）の式を思い出し、感慨無量でした。

また、本山挙げての就任式に同行した母並びに檀信徒は感激し、帰りのバスの中で母は「五十七年前私を身籠つた時、あまりのツワリの苦しみの様子に父や祖父母は母の命を助け私を産むことをあきらめる寸前までいったが、母の生みの親がそれを聞き、『ツワリは病気でないのだから、絶対死ねることはない。大丈夫。』という一言のお蔭で、私を生んで本当に良かった」と話し、檀家への住職不在が多くなることの許しを乞うたそうです。帰ってから、電話で母がこの話をしてくれた時、「もしかしたら私はこの世に生を受けることがなかったのかもしれない。もしそうなら、今、道元禅師の御膝元である永平寺で雲水の方々と修行をし、全国の檀信徒の

皆様に禅師の教えをお伝えし広めることができなかつた」と思うと、「人身得ること難し、仏法値うこと希れなり（人として、この世に生を受けること、そして、正しい仏法の教えに出会うことが如何に有り難いことであるか）」という禅師のお示しを想い、日々、禅師の教えを実践していこうと決意を新たにいたしました。

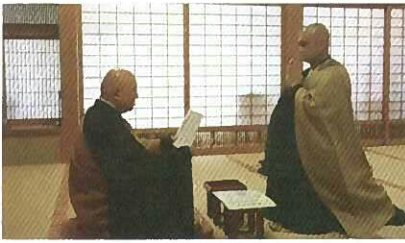
たしました。

そうはいつても、寝不足や、慣れない行持や公務が続いたり、東龍寺との往復の疲れからでしようか、体重が五キロ近く減り、お蔭様で大分スマート（？）になりました。

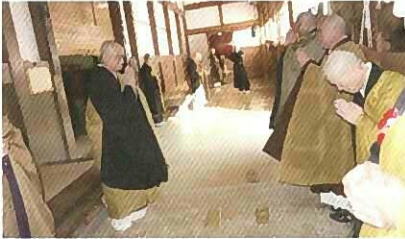
ただ、自分の公務の中心である本山へ泊りの檀信徒の方々への法話、三泊四日の参禅研修などを勤めておりますと旧知の方が参加さ



本山布教部部长 就任記念 東龍寺本山参拝団 平成24年11月4日



大田監院老師より辞令を頂く



28年ぶりに僧堂へ入堂の式の様子



永平寺で内講(講義)を務めている所、2月28日

れたり、新たな出会いがあったりして、本山でなければ味わえない御縁に喜びを覚えることも多々あります。

平成二十二年、東龍寺で行われた新潟県曹洞宗青年会主催『授戒会』の戒師としてお越しく下さいました現永平七十九世福山諦法禪師は、「流汗悟道」を座右の銘とされ、仏教はその教えを自らがひたいに汗をして実践してこそ会得されるものであると、本山に居られる時は雲水と同じ墨染めの衣を着て行持に出て来られ、ともにつとめるといふ姿勢をお示しくださいっております。

最近、私は、修行僧へ「檀信徒への法話や坐禅の実践」についての講義をする機会がありました。元より浅学非才の身ではありますが、自分が志した布教の道を本山の修行僧に指導すること、本山へお参りの曹洞宗檀信徒に道元禪師の教えをお示しすること、この二つの実践が少しでもできるように、道元禪師のお膝元で修行させていただける御縁に感謝しながら、自ら額に汗をして精進してまいりたいと念じております。今後とも、ご理解とご支援の程よろしくお願い申し上げます。

合 掌

大本山永平寺役寮就任式に参列して

田上町本田上 檀徒総代 渡 辺 勝



法堂での檀信徒供養に御参りの様子(筆者中央) 11月4日早朝

平成二十四年十一月三日、四日、方丈様、お母様、安龍寺並びに光明寺ご住職を始め、檀信徒の皆様総勢二十八名と共に一路大本山永平寺へ。雨も上がり天候は晴れ、少し肌寒さを感じましたが、バスの中は、清々しい雰囲気にも包まれ、明日(十一月四日)に行われる就任式を迎えるにあたり、いろいろな人からのご意見等があったと思いますが、檀信徒各位のご理解のもと、方丈様のご決断され、バスの中では少し不安をのぞかせながらも、感謝と決意表明がありました。

バスは福井県に入り、多少緊張しての大本山永平寺に到着です。

今、この大本山永平寺境内に入り、これが今から七百七十年前に、道元禪師によって、開かれた坐禅修行の道場で、現在は曹洞宗の大本山として信仰の源となつている境内を目の当たりにして感動と驚きを覚える一時でした。食事、坐禅、法話、特に法堂では、朝課(朝の読経)が、修行僧の糸乱れぬ読経の音が響き渡り、心が清浄になる厳かな一時でした。就任式では、方丈様が永平寺監院大田大稜老師の前で任命を頂き、謹んでお受け致しますとの決意に満ちた声でお答えしております。大変感動で、この場に居られた事を東龍寺のひとりの檀家

として誇りに思った次第です。帰りのバスの中で、お母様の感謝のご挨拶をお聞きし、子を思う母の心厚い親子の思いを感じました。

最後に、大本山永平寺での貴重な体験をさせていただき有難うございました。

田上町川船河 坂上 恵子

役寮就任式の話があつてから主人は「方丈様を永平寺まで送り届けなければ」と言っていました。が当の本人は体の調子が思うようにはいかず、欠席の知らせをお寺様に行き理由を話した所、私に行く様に言われ参加する事にしました。

三日朝八時三十分、東龍寺を出発して所々参加者を車に乗せ、方丈様を含め二十八名で永平寺に向つてバスの長旅が始まりました。サービスエリアで自分の好きな昼食をすませ、午後二時すぎ永平寺に着きました。バスを下りてから参門までの杉並み木を、十五年ぶりになつかしく通つて、着いた玄関は、明るく相変わらず雲水さんが忙しそうに働いていました。大広間に案内されホッとくつろいだ部屋には、もう布団がずらりと敷いてありました。修行僧たちが作ってくれた夕食をいただいで、その後、坐禅、法話、修行の様子ビデオの上映がありました。特に坐禅は坐蒲を使用してもなかなか足が組めませんでした。なんとかつとめることができませんでした。夜、九時近くに部屋に戻り、少し体を伸ばして休みました。四日朝二時頃から目覚め、自分の布団を一カ所に集め身支度をして、朝の冷たい空気の中階段を登り下りして大広間に行き、大勢の雲水さんのお経の中、二回焼香して長い廊下を通つてある部屋へ、そして役寮就任式。道元禪師をお祀りする承陽殿では、皆で見守る中、方丈様は狭い階段を上へ上へと登つて見えなくなりました。長い時間ではなかったが、下

りてこられました。長い廊下を通つて、その後、僧堂（坐禅堂）で入堂のお拝をなさり、最後に菩提座にて役寮、雲水さんたちに就任のご挨拶をなさいました。

この寒さの中、毎朝修行しておられる雲水さんの事を思うと頭が下がります。朝食は八時、おなかペコペコでおいしく全部いただきました。

その後、身支度して永平寺を後に歩いてある店へ。そこで時間まで買い物を楽しみました。店の二階で方丈様と一緒に昼食をいただき、またバスにのつて山道を登り下りして宝慶寺へ。山奥にりつばなお寺が私達を待っていました。聞く所によると道元禪師のお弟子さんが開かれた由緒あるお寺でした。お拜りを終えて帰りのバスで方丈様は永平寺へ行かれるとのこと。私達は大型バスにのる前、方丈様とお母様のしばし別れの御様子がおほえましく感じました。

この様な貴重な就任式に参加させて頂き、本当に有難うございました。

〳 任職より一言〵

ご寄稿くださった渡辺さん、坂上さん、はじめ就任式にご参加くださった皆さんには、心から感謝申し上げます。

本山に行つてから、葬儀が大分続きました。檀家の皆さんが「遠い所よく帰ってきてくれました」と、安堵してくださるの、何よりの励みになります。帰れないことも何回かありましたが、インターネットで音声データを送り通夜説教を肉声で流してもらったりして、私がある場にいるがごとく安龍寺様と光明寺様に御願いをして勤めて頂いております。



菩提座で、役寮・修行僧に就任の挨拶

不思議の国で

田上町中店 茂木豊彦

インドに行ってきたよ・・と知人友人に言うのと決まって同じようなことを聞かれます。

「で、どうだった？人生観とか変わったんじゃないの？」

うーん、難しい質問ですね。なぜみんな同じようなことを聞くんだろう？でも、逆の立場ならきつと私も同じようなことを聞いたかもしれないな。これがもし香港なら、「買い物ツアーだったの？北京ダックを食べてきた？」とか聞かれることはあっても「人生観が変わった？」などと聞かれることはないでしょうね。

どうも、インドという国には「訪れた人の人生に何か大きな影響を与えるらしい！」という特別なイメージがあるようです。かの三島由紀夫氏は「人間にはインドに行ける者といけない者があり、さらにその時期は運命的なカルマが決定する」と語ったそうですね。すると私はインドに行ける者だったのかな？いや、三島氏の言葉はもつともっと深い意味で私の場合には当てはまらないでしょう。

昨年、私の父が九十七歳で急逝して東龍寺の渡辺住職様にお世話になりました。その縁で今回、渡辺様から誘われて仏跡巡礼の旅のお仲間に入れてもらったわけですが、もし父が健在ならインドには行くこともなかったでしょう。もしかしたら、不信心者の私を覚醒させるために父がインドに導いたのかもしれない？そう考えると実に不思議です。

で、不思議といえればインドは私には驚異と不思議のワンダラーランドそのものでした。御一緒した若いお坊さんがインドでこんなことを言っていました。「僕は、ここはデイズニールランドみたいな感じがしてならないんです。たとえば、あそここの物乞いの子も、その路上生活者の家族も、市場でフ

ルーツを売っているオッサンも、サリー姿のおばさんも、みんなほんとはインドという巨大なテーマパークの従業員（キャスト）で、僕達旅行者（ゲスト）を楽しませるために演技をしているのではないかと；そんな錯覚を覚えて仕方ないんです。もちろん、そうでないことはわかっているんですけど；

これはインドで目にする光景がどれも信じられないほど強烈なので、きっとここは一種のテーマパークじゃないほど強いか？と感じたらしい。その気持はわかるような気がします。私もまるで不思議の国に迷い込んだアリスのようだったからなにしろ人口十二億で言語も八百種以上だそうですから地域が違えば言語や文化も違う。インドは国というより多民族の住む大陸：というほうがピッタリのようにです。

で、先ほどの自問に戻る。インドで私の人生観は変わっただろうか？たしかに変わったようです。というより現在進行形で変わりつつある：ようなのです。

：ようなのです、というのは奇妙なことに、旅の記憶がなかなか風化せず、時が経つほどいくつかの光景が力を増していく感じがするんです；と、ある奥様に話したら、「それは漢方薬みたいですね。後からじわじわと効いてくるなんて；でも、それって、とても大事ななこと」と言われました。

そうかもしれないと思いましたが。

たとえば祇園精舎の濃密な夜の闇。対照的にキラキラと仏跡群を照りつける真昼の太陽。庭先に牛の糞が干されている農村光景。牛と羊と人と人間が共存して



素足の物乞いの少年少女達

いる街並み。愛らしくシタタカな裸足の物乞いの少年少女達。かと思えば、都会の近代的なビル群と宮殿みたいな豪華なホテル。これらが渾然一体となって私に何かを問いかけてくる。

では、自分の何が変わったというのだろうか？それを言葉で掬うのはとても難しい。匂いや香りを言葉で捉えられないように。あるいは無理に言葉にしたら、朝露の輝きがじきに消えてしまうように忽ちありきたりの意味に「変質」してしまいうそう。

乾いた空気にジャスミンの香りが妖しく漂い、そして、お釈迦様が生まれたこの地の原風景がいつか漢方薬のようにじわじわと効いてくるような予感がする国；それが私にとつての不思議の国・インドでした。

合 掌

インド仏跡巡拝の旅に参加して

加茂市陣ヶ峰 大湊敬太郎

ユリ子

インドに着いたときは、ちょうど金曜日の退社時間に当り、町は沸き出すほどのエネルギーで、人と車の渦で身動きできない状態でした。クラクションが鳴りやまない中、バスはホテルに向かいました。

二日目からバス移動で見たインドは、紀元前に時が止まってしまったような、村の様子で、まるでお釈迦様と同じ物を見たり聞いたり触ったり、今ここに現れても不思議ではない様な、自然の流れの中に居ました。

仏跡供養では、穏やかな流れの中で、緊張と迫力を感じ、さすががしい気持で御参りさせて頂きました。

サヘートの方灯供養は、真暗闇の中で、小さなローソクの光だけが足元を照らし、上弦の月とオリオン座の星、そし



新潟県から参加した皆さんで記念写真

の法話で、おっしゃってお居れました。とても楽しいインド仏跡巡拝の旅になりました。お供させて頂き、有り難うございました。二人で参加できた事も良い思い出になり感謝しています。

〓 住職より一言〓

昨年、二月二十四日から、三月一日まで、インド・ネパールのお釈迦様の聖地を巡礼する旅を私が今年二月まで事務局長を務めていた遊行会（布教を志す曹洞宗僧侶の会）で、企画を致しました。

全国から、三十八名の僧侶・寺族・在家の方の参加がありました。新潟県から九名の参加があり、大変ありがたかったです。茂木さんは東龍寺の檀家ですし、大湊さんは坐禅会や加茂法話会にご参加してくださっています。

お釈迦様の聖地に足を運ぶことは難値難遇のご縁であったかと思えます。これから仏縁を一層深めていって下さることを念じております。

て、ローソクの光の海にただ一人抱かれた様な感覚でした。これは、小高い所から全体を見渡した時の、印象です。

行きも帰りも、ニードリーのホテルは、とてもすばらしい所でした。その反面、各地でのわらぶき小家、物ごいの多さに落差を感じ、現実の厳しさを思いました。『幸は、他人のはかりで計るものではなく、自分のはかりで計るもの。』物ごいも、それはそれで幸せなのだ。と、バス

坐禅と出逢って

新潟市秋葉区 南木仁美

坐禅は最初、私にとって仏教修行の一環として俗世の人間の行為とは隔絶されたとても神秘的で近寄りがたい物でした。しかし昨今のお寺ブームや一般向けの禅の教えの本、スポーツ選手の精神統一の技法にと、禅は私たちの生活に徐々に組み込まれてきています。

その事に興味を持ち、六月のあじさい祭りの際に坐禅体験をさせて頂きました。本当は旅館宿泊客限定の企画だったのですが、折角来たのだからと、暑い中私一人の為に部屋も設けて下さり、終わりには御念仏まで唱えて頂きました。本当に感謝の気持ちで一杯でした。

そしてそんな中、「とても充実した時間」を頂いた、と心の底から感じました。住職様のご厚意を受けて感銘を受けたという事もあるのですが、純粹に、清らかな何かを感じた事も大きかった様に思います。

外の蒸した陽気や蟬の忙しな声から隔絶された坐禅室内は凜とし、外界から更に隔てる様にお香の香りが部屋を満たしていました。その中で坐禅を行い、この隔たれた空間でとても安心した気持ちになりました。何も考えず、ただ座っている。最近そんな事もしなかつた様に思います。

時間に束縛されず、坐禅堂の安らぎの中で何かに守られ



南木仁美、南慧昭老師と

る様にそこにおいて、ゆっくりと呼吸し、遠くで聴こえる蟬の声や住職様の有難いお話に耳を傾ける…とても素敵で、充実した時間でした。その日の帰り道、周りの空気や空がとても清々しく澄んで見えた事を今でも鮮明に覚えています。

そして坐禅体験を通して、もっと自分だけの時間を持つべきだと考え、その日から毎日朝と夜に二十分だけ坐禅の時間を設ける事にしました。坐禅堂とは些か勝手も違ってきますが、それでも毎朝毎晩、この時間を大切にしています。六月から、坐禅に支えられた半年でした。この坐禅を通し、自分の中で変わった所が沢山あります。まずは心を落ち着けて、それから一歩を踏み出そう。そう教えてくれました。

それから何度か東龍寺に通い、坐禅会や法話の会に参加させて頂きました。そこで坐禅を通じ、様々な有難い出逢いを頂いたと感じています。ここの東龍寺に、そして坐禅をご指導下さった住職様に、私を支えてくれた坐禅に、感謝と敬意を表します。

本当に、ありがとうございます。

住職より一言

南木さんは、アジサイを見ながら、六月の癒し坐禅体験に参加されました。県外出身の新潟市内の大学に通う学生さんですが、とても素直に気持ちよさそうに坐禅や法話会に参加してくれたのが、印象的でした。

これからも東龍寺へ通ってくださることを願っています。

眼蔵会案内

第十二回眼蔵会を七月四日(木)～六日(土)に行います。

駒澤大学教授・角田泰隆先生より、「即心是仏」の巻を「提唱いただきます。是非、ご参加ご修行ください。」

【東龍寺年中行持】

- 七月 金毘羅大祭
- 八月 一日 うらぼん会(盆参)
- 八月廿四日 水子地藏尊並びに観音様大祭
- 九月廿三日 秋のお彼岸会(お彼岸の中目) 常齋米法要
- 十月 十二月三十一日 除夜祭(除夜の鐘) 大般若祈祷会
- 一月 一日 寺年始(近隣の檀家)
- 一月 二日 寺年始(遠方の檀家)
- 三月廿一日春のお彼岸会(お彼岸の中目)

【平成二十四年度事業、行持報告】

一、昨年の冬は、二十数年ぶりの大雪にみまわれ、東龍寺では開山堂の垂木が折れるなどの被害が出ました。

◀「開山堂屋根工事」6月20日完了



平成24年2月の大雪

一、六月十一日第四宗務所第二、三教区合同の梅花特派講習会が倉田昌典師範(富山県龍光寺住職)指導のもと、行われた。

一、六月二十一日(木)二十三日(土)に、駒澤大学教授角田泰隆師を講師にお招きし、第十一回眼蔵会を講本「礼拝得髓の巻」で、開催した。



眼蔵会飯台



眼蔵会

◀田上小3年生大杉伝説



一、七月十日、田上小学校三年生五十三名、先生三名「東龍寺と大杉伝説」について、訪ねてくる。

一、七月十一日(水)午前十一時より、第二十三回金毘羅大祭を講員四十名の参加で行った。

一、九月十六日午後五時から、第三回湯田上温泉祭りの一環として、田中弦楽四重奏団によるクラシックコンサートが、本堂で行われた。

一、十月七日(日)午後七時より、田上町仏教会では、東龍寺を会場に、大分県勝光寺住職南慧昭老師をお招きし、第十七回秋の講演会を行った。老師はシンガーソングライター南こうせつ氏のお兄様で、歌を交えての講演を頂き、今ままで最も参加が多い百名を超える聴衆が集まり、楽しいひと時を過ごした。



南慧昭老師法話

◀第23回金毘羅大祭



一、十一月三日、四日、住職が大本山永平寺布教部部長就任に当たり、安龍寺様、光明寺様、寺族(住職の母)、檀信徒総勢二十七名で大本山永平寺並びに宝慶寺に参拝の旅を行った。

【参禅の報告】

一、四月二十日「第三十二回卯辰会の集い」坐禅。(代表三条市・内山莊一)二十一名。

一、六月一日、須佐製作所一行十一名参禅。四回目。

一、六月二日、加茂晩星高校先生二名、生徒二名。代表/小菅和人。

一、六月十六日、退公連加茂支部。参加、十一名。事務局/金塚勉。

一、六月十九日、代表/村山俊氏、一行六名。十日町高校教員として在職した同期の皆さん。

一、七月二十六日、「練くみあい企画・さつきホール・さつき会館」坐禅。二十一名。

◀クラシックコンサート



一、八月十七日、ボランティアアチャレンジスクール「坐禅体験」。三十一名、職員二名。坐禅と掃除。

一、九月九日、にいがた県央ピンクリボン交流会参禅、二十六名(交流会参加者二十人、スタッフ六人)。

一、九月二十日、NHK文化センター「坐禅に親しむ」の会員九名、東龍寺で坐禅二炷、昼食。



NHK文化センター
「坐禅に親しむ」会員の皆さん
於：東龍寺照光殿1階

一、十一月二十一日、田上ライオンズクラブ坐禅例会。八名。

一、二月二十七日、新潟市日本アム・マンガ専門学校一行二十三名。

【平成二十五年度事業、行持案内】

一、七月四日(木)、六日(土)に、駒澤大学教授角田泰隆師を講師にお招きし、第十二回眼蔵会を講本「即心是仏の巻」で、開催する。



ボランティアチャレンジスクール参禅

一、十月十三日(日)午後七時より、田上町仏教会では東龍寺を会場に、岡山県高野山真言宗高蔵寺住職・天野高雄僧正をお招きし、第十八回秋の講演会を予定している。

【月例加茂法話会】

一、毎月一回、夜、加茂市上町コミュニティセンターの二階を貸り、僧侶六名(三名ずつ担当)による法話を聞く会を開催しています。お気軽にご参加下さい。

【月例坐禅会の御案内】

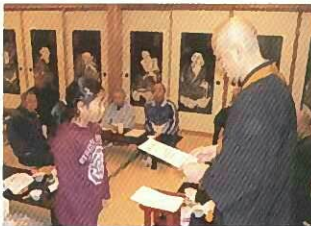
一、月例坐禅会を毎月第二土曜日夜七時半より行っています。お気軽にご参加ください。

【心の癒し坐禅体験】

一、毎週水曜、木曜(祭日は除く)の午後四時から、約一時間、湯田上温泉宿泊者に坐禅修行体験をしていただいております。



加茂法話会



皆勤賞表彰の様子

【梅花講のお知らせ】

一、梅花講では、毎月七日と、二十二日の二回練習をおこなっています。お始めになりたい方は、お気軽にご参加ください。

【その他の照光殿での催し】

一、大正琴のお稽古を先生をお招きし、有志で行っております。興味のある方、のぞいてみませんか。

【お寺よりの御礼とお願い】

一、今年はお盆の棚経回りを下記の日程で行いますので、ご理解とご協力の程、お願いします。

◆お盆前

新潟・亀田・三条・巻・燕・白根・長岡

◆十三日住職

新津・中山・赤渋・笠巻・三ツ屋・三枚湯・市ノ瀬・寛路津

◆お盆中住職

湯川・谷・中店・山崎・山田・湯古屋・加茂地区

◆吉祥寺若様

川之下・原ヶ崎・下吉田・鎌倉・新保・龍玄・嶋・庄瀬・石田

新田・後藤・曾根・横場・羽生田・川船河

◆少林寺

上野

◆少林寺若様

本田上
住職は、永平寺から戻ったの棚経となりますので、代理の方にお願ひする場合もあるかもしれませんので、ご容赦ください。

編集後記

寺報二十五号を発刊するに当たり、渡辺勝氏、坂上恵子氏、大湊敬太郎・ユリ子ご夫妻、茂木豊彦氏、浦木仁美氏より、ご寄稿を賜り有難うございました。今後皆様のご寄稿をお待ちしております。

昨年十一月から、安龍寺様、光明寺様に壇務をお願いをしながら永平寺の役務を何とか務めております。

何かと不便をお掛け致しますが、ご理解と御協力をお願い申し上げます。

住職 合掌

曹洞宗 心の電話 ☎ 0120-508-740

こちらに電話をすると、全国の曹洞宗の方丈様達が一週間交代で、3分間の「ほとけの心」をわかりやすく説いた法話が流れます。24時間いつでも繋がりますので、是非、お聞きください。東龍寺住職も平成18年度より、年2回担当しております。本年度は、10月15日～21日、4月15日～21日です。

永平寺電話説法 ☎ 0776-63-3399

役寮が、十日ごとに代わって、3～5分の法話を行います。住職も担当しています。是非、お聞きください。